

第2部

事業の総括評価



平成27年度 青年社会活動コアリーダー育成プログラム総括評価

1 趣 旨

青年社会活動コアリーダー育成プログラムでは、多様な個人が能力を発揮しつつ、自立して共に社会に参加し、支え合う「共生社会」を築いていくためには、地域住民やNPOなどによる社会活動の充実が必要不可欠であるという認識のもと、高齢者関連活動、障害者関連活動及び青少年関連活動の各分野において社会活動に携わる日本青年を海外に派遣している。また、海外の非営利組織などで活動する青年リーダーを日本に招へいし、国内での相互交流を通じて、社会活動の中心的担い手となる青年リーダーの能力の向上と、各国、各分野間のネットワークの形成を図ることを目的として実施している。

本事業は、「日本青年派遣」と「外国青年招へい」により構成され、平成27年度（第14回）は、ドイツ連邦共和国（以下「ドイツ」）、グレートブリテン及び北アイルランド連合王国（以下「英国」）及びオーストリア共和国（以下「オーストリア」）の3か国を相互交流の対象国として実施した。

「日本青年派遣」では、高齢者関連活動に携わる青年をドイツ、障害者関連活動に携わる青年を英国、青少年関連活動に携わる青年をオーストリアに派遣した。

「外国青年招へい」では、上記3か国から高齢者・障害者・青少年関連活動に携わる外国青年（外国参加青年）を招へいし、同関連分野で活躍する青年と日本青年を含む4か国による多国間交流を行った。

また、日本青年の育成の観点から、内閣府青年国際交流事業の共通の目的は「国際社会の各分野でリーダーシップを発揮し、社会に貢献する青年を育成する」ことであり、本事業では、これに加えて非営利団体の運営能力向上及び専門分野の知識の向上、並びに3分野が連携

するネットワーク作りを目指している。

本事業では、以上の目的を達成するため、関連分野の課題に応じて総合テーマを定めるとともに、派遣団については、団ごとにテーマを設定して取り組んでいる。その上で、テーマに沿った国及び地方行政からの関連施策の概要説明、表敬訪問、先進的・特徴的な社会活動現場や関連施設への訪問、同施設関係者などとの意見交換、ホームステイなど、様々なプログラムを実施し、中でも、関係者との情報交換や意見交換を重視している。こうしたプログラム内容については、毎年度、交流対象国に対して要望を出しながら、見直しを行っている。

また、「外国青年招へい」では、多国間での情報交換と日本の現状について理解し、発信することが可能な内容に組み立てるべく、三つの関連活動の非営利分野で活躍する日本青年（日本参加者）と外国参加青年が一堂に会してNPO事情や活動事例に基づく議論を行う「NPOマネジメントフォーラム」を実施している。

本年度事業の成果を測るため、派遣青年及び外国参加青年全員を対象として事業終了時にアンケート評価を行った。アンケート評価の数値基準は、5段階評価（評価の高い方から5～1）を基本とした。

本報告書では、「日本青年派遣」及び「外国青年招へい」に分け評価する。

参加青年に対して行った5段階評価のアンケートの詳細については「第5部 第1章 派遣プログラムアンケート」及び「第5部 第2章 招へいプログラムアンケート」参照。

2 評価結果

1. 日本青年派遣事業の目的の達成度

訪問国の専門分野事情への理解

「訪問国政府又は関連機関からの説明」に関して、5段階評価の3（ある程度有益だった）以上をつけた日本青年（派遣青年）は100%であった。

非営利団体訪問

「非営利団体訪問におけるスタッフとの情報交換及び意見交換」に関して、5段階評価の4（ある程度有益だった）以上をつけた派遣青年が96%であった。

また、「非営利団体の訪問時のプログラム内容につい

て」も、3以上が100%であり、4以上は83%であることから、高評価であった。

他分野との情報交換、マネジメントの学び

「研修などを通じて、他分野の参加青年とも情報交換し、社会活動のマネジメントなどについて学ぶことができましたか」との問いに対して、3(ある程度できた)以上の回答は91%となり、3分野連携の意識向上に大きな影響があったことが認められた。

事業参加による参加青年の将来への影響

「この事業は、あなたの将来に役立つと思いますか」の問いに対して、5(とても役立つと思う)の回答は65%、4(役立つと思う)が26%、3(ある程度役立つと思う)9%であり、全員が役立つと回答している。

日本参加青年の成長(自己評価の向上度)

本事業の目的の一つである派遣青年の成長についての自己評価を、項目別に検証し3(効果があった)以上の評価をまとめたところ、次のような結果になった。

「訪問国の基礎知識・理解」	100%
「コミュニケーション力」	91%
「リーダーシップ」	73%
「問題解決能力(目の課題を解決するために創意工夫する力)」	82%
「異文化に対応する能力」	100%
「主体性・積極性・チャレンジ精神」	91%
「集団生活への適応力(協調性・柔軟性など)」	83%
「日本人としてのアイデンティティと誇り」	96%
「責任感・使命感」	96%
「自己管理能力」	87%
「ディスカッション力」	87%
「国内外の友人・ネットワークづくり」	100%
「専門的知識の向上」	100%

事業実施後の自己評価にみる成長の効果

いずれも高評価であり、5(著しく大きな効果があった)と4(大変な効果があった)の評価が多く、特徴を把握するために成長度が高いとの自己評価があった項目を検証したところ、最も高かったのは「訪問国の基礎知識・理解」、「異文化に対応する能力」、「国内外の友人、ネットワークづくり」、「専門的知識の向上」であり、事前研修に加えて、自主的な合宿を行うなどの準備によって、訪問国や日本の専門知識を深めて派遣に出発していったことが、このような評価につながっていると考えられる。

次いで伸び幅が大きかった項目は、「日本人としてのアイデンティティと誇り」、「責任感・使命感」、「コミュニケーション力」、「主体性・積極性・チャレンジ精神」、であった。短い事前研修において団の目標などを青年が自主的に決めていく活動や、役割分担に基づいた事前研修後の自主研修期間中の取組が、チームワーク

を発揮して効果的に行われたこと、さらに日本代表としての自覚が芽生えていったことを示している。また、プログラムにおける多様な場面での多彩な人々との意見交換などの実践的経験、日本青年代表としての表敬訪問など、普段体験することができない貴重な経験を通じて得られたものであると考察できる。

比較的数字が低い項目は「リーダーシップ」、「問題解決能力(目の課題を解決するために創意工夫する力)」、「集団生活への適応力(協調性・柔軟性など)」であるが、研修中に、参加者がリーダーシップや問題解決についてより考えることとなるようプログラムを組み立てることや、自主研修の際に、知識だけではなくこれらの能力について考える内容を含めるように働きかけることなどで、伸びる素地をつくれるのではないかと考える。

2. 外国青年招へい事業の目的の達成度

日本の専門分野事情への理解

「このプログラムから何を学びましたか」の問いに対して、「日本における専門分野の現状」と答えた参加青年が45%おり、「政府職員による各分野の現状の講義」について、5段階評価の3(適切)以上をつけた外国参加青年は100%であり、4(効果的)以上をつけた青年が97%と高評価であった。

日本の非営利団体への理解

「このプログラムから何を学びましたか」との問いに対して、「日本におけるNPO運営への現状」と答えた参加青年が61%おり、「日本のNPOの現状についての基調講演」については、5段階評価の3(適切)以上をつけた外国参加青年が97%であり、4(効果的)以上は94%であった。

他分野との情報交換、マネジメントの学び

「他分野の参加青年とも情報交換し、社会活動のマネジメントなどについて学ぶことができましたか」との問いに対して、3(部分的に学んだ)以上の回答は97%となり、派遣青年同様に3分野連携の意識向上に大きな影響があったことが認められた。

事業参加による参加青年の将来への影響

「このプログラムは、あなたのキャリアに役立つと思いますか」の問いに対して、5(とても役立つと思う)の回答は18%、4(役立つと思う)が45%であり、2(思わない)は3%であった。

< NPOマネジメントフォーラム >

日本参加者の成果

NPOマネジメントフォーラムの日本参加者に対し、期待していたことと得られたことについてアンケートを行い、その内容を比較したところ、期待していたこととの回答として最も多かったのは、「参加者間のネットワーク

作り」、「トピックに掲げたテーマの具体的な内容を学ぶこと」、さらに「各国の高齢者・障害者・青少年分野の状況について情報を得ること」であり、得られたことに関する回答の順位もほぼ同様であったことから、日本参加者の期待に応えるものであったと評価している。

外国参加青年の成果

上記のアンケートを外国参加青年に対しても行ったところ、期待していたことへの回答として最も多かったのは、「各国の非営利団体の状況について」、次いで「参加者間のネットワーク作り」、さらに「各国の高齢者・障害者・青少年分野の状況について情報を得ること」であり、得られたことに関する回答の順位も同様であったことから、外国参加青年にとっても期待に応えるものであったと評価している。

今後の課題について

「NPOマネジメントフォーラムにおける体験が、今後自分の団体運営に役立つか」との問いに、日本参加者の91%が3(ある程度役立つ)以上としているのに対し、外国参加青年は3(ある程度役立つ)以上が71%、2(あ

まり役立つ)以下が24%と評価が分かれた。昨年度も同じ傾向にあるが、このような結果については、外国参加青年と日本参加者の経験値と知識に差があることが一因ではないかと考えられる。今後の取組として、フォーラムのテーマ設定やプログラムの組成にあたって、日本参加者と外国参加青年が共に関心を持つ内容を設定し、意見交換しやすい環境作りをすることも必要と考えている。

<地方プログラムについて>

外国参加青年の成果

「地方プログラム全体の満足度について」は、どの訪問県においても、3(そこそこ満足)以上が100%であり、高評価を受けた。地方セミナーの評価も、4(とても満足)以上が87%と高評価であった。

受入各県の成果

各訪問先からも非常に高い意見交換ができたとの評価を受けるとともに、地方セミナーの評価も、受入県全体で4(良かった)以上が98%と高評価であった。

3 総合評価

「日本青年派遣」では、訪問国プログラムの全体評価は、4(良かった)以上の評価が100%であり、高評価の一方で、「あなたの目標は達成できましたか」への評価は4(達成できた)以上が35%と低い数値になっている。これは、昨年度と同様の傾向であるが、一因として、派遣青年の知識及び経験不足があると推測でき、派遣前の準備の取組をより一層効果的に行う必要があると認識している。

「外国青年招へい」のプログラム全体の満足度は、3(まあまあ満足)以上の評価が100%であり、4(とても満足)以上は90%と高評価であった。また、「このプログラムへのあなたの期待は何でしたか」の問いに対して、高評価の上位3項目は「日本におけるNPO運営の現状」、「日本における各自の専門分野の現状」、「各自の専門分野の課題解決のヒントを得ること」であったのに対して、「このプログラムから何を学びましたか」との問いに対する高評価の上位には、前述の項目と同じ項目のほか、「他の招へい2か国におけるNPO運営の現状」が含まれていた。この結果から、外国参加青年の期待に応えるとともに、効果的な情報交換がなされたと認識している。

また、日本と参加国との関係構築については、外国参加青年に「日本と参加国の相互理解を深めることができたと思いますか」と問うたところ、4(思う)以上が87%であり、「日本と参加国の友情を深めることができ

たと思いますか」との問いには、4(思う)以上が95%であった。

一方、NPOマネジメントフォーラムにおける、「フォーラムに参加することで、日本参加者とのネットワークを構築できるようなコミュニケーションをとることができたと考えますか」との問いに、3(ある程度できた)と答えた外国参加青年は92%であったものの、日本参加者に対する外国参加青年とのコミュニケーションについての問いには、3(ある程度できた)以上が53%であり、昨年度と比較して低い数値となった。具体的要因は必ずしも明確ではないが、日本参加者が外国参加青年とより積極的にコミュニケーションをとれるよう、運営方法の改善を図る必要があると考えている。しかしながら、今年度もネットワーク構築に向けて、ある程度の成果を得られたと評価している。

* なお、平成14年度に開始された本事業は今年度をもって終了し、来年度からは、より地域の活性化に焦点を当てる内容として発展的に改組した、地域課題対応人材育成事業「地域コアリーダープログラム」を実施する。今後の事業の実施に際しては、「青年社会活動コアリーダー育成プログラム」で得たネットワークと既参加者の成果をいかして、より充実した事業を目指すものである。